

事項三 ブラジル移民関係

一四七 三月十四日

在サンパウロ春日總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛

齋藤通訳生提出新来移植民輸送及ビ上陸状況

視察復命書進達ノ件

付屬書 齋藤通訳生提出復命書

通公第四二号

(四月二十五日接受)

大正十二年三月十四日

在サンパウロ

總領事代理 春日 廓明(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

齋藤通訳生提出新来移植民輸送及上陸状況視察復

命書進達ノ件

客年十二月二十八日神戸出帆ノめきしこ丸輸送移植民本月十日「サントス」上陸ニ際シ齋藤通訳生ニ同市出張ヲ命シ移植民上陸状況ヲ視察セシメ候依ッテ同通訳生提出ニ係ル別紙復命書及進達候間御査閱相成候様致度此段申進候

敬具

(付屬書)

新来移植民輸送及「サントス」上陸状況視察復命書(大正十二年三月十四日 通訳生 齋藤武雄)

海外興業株式会社取扱第二十六回伯刺西爾行移植民二百九名ヲ搭載客年十二月二十八日神戸港ヲ出帆シタル大阪商船会社汽船めきしこ丸ハ長途ノ航海幸ニ恙ナク本邦ヲ出テテ七十二日ノ日子ヲ費ヤシ本月十日午後二時「サントス」ニ入港セリ此日当地方連日ノ降雨未タ止マス天氣為メニ陰鬱タリ

移民輸送船めきしこ丸ノ埠頭繫泊ニ先チ小官ハ当地海興会社支店員並ニ大阪商船会社代理店員ト共ニ汽艇ニ便乗徐行中ノ該船ニ近ツキ検査官及水上警察官ノ退出後直チニ乗船シ船長船医其他便乗移植民ト面会親シク航海衛生食事等ニ就キ聴取セリ依テ項ヲ追ッテ之ヲ記述セントス

一、航海状況

本船ハ神戸出帆後門司、香港、新嘉坡ヲ經テ印度洋ニ入リテ後モ風波静穩移植民中船量ニ苦惱スル者無ク愉快ナ

ル航海ヲ続ケテ「ダーバン」ニ入り同地出帆後「ケープタウン」ニ至ル途中風浪稍々激シク船ニ慣レサル移植民ハ為メニ多少ノ苦難ヲ経験セシモ大西洋ニ入りテ以来稀ニ見ル平穩ナル航海ニテ一同元氣旺盛希望ニ輝キテ目的地ニ到着セリ

一、船内設備

移植民ニ充用セラルル船室並ニ其採光通風ニ関シテハ以前ト比シ何等異ナル所ナク当館ヨリ之レ迄報告セシ所ト同一ナルヲ以テ茲ニ細説スルヲ避クヘシ

一、船内衛生

神戸乗船以來航海ノ静穩ト氣候ニ激変ナカリシト藤井船医並ニ金丸輸送監督ガ食事運動其他巨細ノ点ニ亘リ周密ノ注意ヲ怠ラサリシ為メカ船内衛生頗ル良好特記スヘキ疾病ニ冒サレタル者無キハ勿論本邦移民中ニ常ニ見ル脚氣患者サヘ發生セズ神戸ニテ乗船セシ二百九名ノ移植民ニ一名ノ死亡者モ出ササリシハ幸福ナリシ船中出生者四名内男児一名ハ出生後十日目ニ風邪ニテ突然死亡シ又同様船中出生子一名ハ收容所ニ到着後死去セシハ遺憾ナリ

一、食事並ニ運動

三 ブラジル移民関係 一四七

從來大阪商船会社ガ移植民ニ与フル食事ニ関シテハ兎角ノ惡評批難多ク之ガ改善ノ必要ハ當館ヨリノ報告中ニ反覆論ゼラレ海興会社支店モ亦本社ニ向ヒ之カ改善ヲ高調スル所アリシ為メカ昨年以來移民中ニ食事ニ関スル苦情ヲ訴フル者甚タ少ナク今回輸送ノ任ニ膺リシ金丸社員ハ特ニ此点ニ留意シ曾テ大阪商船会社々員タリシ關係上船長其他船員ト協力米飯麦飯ハ移民ノ選択ニ一任シ副食物ニ関シテモ充分ノ注意ヲ払ヒ能フ限りノ便宜改善ニ努メシ故カ此点ニ関スル不平不満ノ声ヲ聴カサリキ猶脚氣胃腸病等ノ發生ヲ防止センカ為メ晴天ノ日ニハ必ズ甲板上ニテ綱引ヲ励行シ且各寄港地ニテ移植民ヲ上陸セシメ船内生活ノ無聊ヲ慰ムル方便タラシムルト同時ニ兎角運動不足ニ陥リテ其結果胃腸病ニ冒サルルヲ予防セシト云フ移民ノ寄港地上陸ニ関シテハ其見地ノ異ナルニ依リ是否ノ論ハアレト日本臣民トシテノ体面ヲ汚サザル様充分ノ注意ヲ与ヘ相當監督ヲ嚴ニシテノ上陸ハ長日月ノ航海ニ在ル移民ノ保健上最モ策ノ得タルモノナルベシ往年ノ如ク一船五百名以上千七八百名ノ移民ヲ輸送スル場合ニハ上陸上種々ノ故障無キヲ保セスト雖今回ノ如ク二百名内

外ノ小人数ノ輸送ナラバ寧ロ努メテ上陸セシムルヲ可トス

一、風紀

長途ノ航海ナレバ移民モ船員モ無聊ニ苦シミ殊ニ船客ノ殆ンド全部移民ニシテ然カモ家族移民ナル為メカ移民輸送船ノ風紀問題ハ船側並ニ輸送監督ノ相当心事ヲ悩マス所ナリ幸ヒ本船航海中忌ハシキ事件モ無ク此問題ト関連スル船員ノ脱走者モ見スシテ満足ニ輸送ノ任務ヲ終了セシハ自他共ニ幸ナリキ

一、上陸並ニ移民ノ服装

上陸ニ先チ「サントス」港検疫所派遣ノ医師ハ船医ト共ニ移植民全部ニ種痘ヲ行ヒ為メニ船ノ埠頭ニ繋留セシハ午後四時半ニシテ其レヨリ税関ノ検査ヲ経テ聖市移民収容所ニ赴カサルヘカラサルヲ以テ上陸ニハ適當ナル時間ニ非ラサリキ然ルニ当地商船会社代理店ニ於テハ船ノ埠頭繋泊時間ヲ三時頃ト見計ヒ鉄道会社ニ移民輸送列車ノ準備ヲ依頼シ置キタル為メ上陸ヲ翌日ニ延期スルヲ欲セス且税関吏ノ念入ナル検査ノ為メ上陸時ノ弥ガ上ニモ遅延スルヲ恐レ移民ノ上陸ニハ手荷物ノ携帯ヲ禁止シ僅カ

ニ毛布ヲ携行セシメ大急ギニテ汽車ニ搭乘セシメタリ
汽車ノ聖市ニ向ケ発車セシハ五時半収容所ヘ到着セシハ午後九時半ナリシ故移植民ノ空腹ヲ訴ヘシハ尤モノ次第ナリ海興支店ニ於テハ之ガ為メ「サントス」ニテ「バナナ」及食「パン」ヲ購入シ途中移民ニ頒布セントセシモ食物ヲ積ミシ列車ハ移民輸送車ト異ナルヲ以テ途中ニテ之ヲ配布スル能ハス空シク聖市ニ持チ帰レリ弁当ノ用意ナクシテ上陸セシ移植民ニハ気毒ナリキ将来渡航ノ移民ニ対シテハ上述ノ如キ場合ヲ予想シ上陸ノ際必要ニ応シ船側ヨリ弁当ヲ給セシムルヲ得バ万全ト可謂

上陸ノ際移民ノ服装ハ会社側ヨリ注意アリシ為メカ兎モ角中庸ヲ得タル身分相応ノモノニシテ贅沢ナルモノ若クハ汚ハシキモノヲ身ニ纏ヒ当国人ノ目ヲ驚カシ又ハ悪感ヲ催セシムルガ如キ服装ノ者無カリシハ喜ブヘキコトナリ

一、耕地入り

「サントス」入港ノ日直チニ上聖収容所ニ入リシ移植民ハ荷物ノ到着ヲ待チツツ二日ノ休養ヲナシ移民ハ夫々指定ノ耕地ニ向ケ出發セシモ「イグアペ」行植民ハ途中鉄

道線路近來ノ大雨ニテ浸水損傷セシ為メ不通トナリ今猶収容所ニ在リテ線路ノ復旧ヲ待チツツアリ猶無補助移民一家族ハ宿痼胃腸病再発当分耕地労働ニ不堪ルガ為メ聖市ニ止リ恢復ヲ待ツテ入耕スル希望ナリト云フ

一、移植民職業別

聖州行本邦移民ハ悉ク農業移民ニシテ從ツテ渡伯後ハ一定ノ契約条件ニ基キ珈琲耕地ニ入り農業ニ従事スル次第ナレトモ近來渡來ノ所謂農業移民中ニハ官吏アリ社員アリ職工アリ商業若クハ工業ニ従事セシ者アリテ純農者ト稱スル者其数甚タ寥々彼等ハ入耕後早朝ヨリ薄暮マテ一定ノ規則ノ下ニ農業ニ従事セサルヘカラズ然カモ全ク經驗無キ仕事ニ従事スルガ為メ(本邦ニ於ケル小作農業者ト雖珈琲園ニ於ケル規則的労働ハ容易ノ業ニアラズ況ンヤ純農者ニ非ラサル者又ハ都会生活ニ慣レタル妻子家族ニ於テオヤ)肉体労働ノ苦痛ニ不堪其ノ甚タシキ者ニ至ツテハ自己ノ不平ヲ他ノ善良ナル移民ニ及ボシ耕地労働ノ不利ヲ宣伝シ耕地行政ニ多大ノ妨害ヲ与フルコト罕ナラザルハ周知ノ事実ニシテ耕主側ヨリ出ツル日本移民惡評ノ一半ハ此輩ノ罪ニ歸セラルベカラズ

本邦現下ノ状況ニテハ純農者ノミニ募集ハ至難ニシテ移民募集人ニ於テモ自家収入ノ都合ヨリ窮余此方法ニ出ツルモノタルベキモ少クトモ彼等ノ中ヨリ全家族身体強健ニシテ意志確固タル者ヲ選定スルノ誠意ヲ抱カシメサルヘカラズ将来多数ノ移民ヲ輸送スルガ如キ場合ニハ移民会社自身責任ヲ以テ充分此点ニ留意シ能フ丈ケ純農業者ノ渡航ヲ奨励シテ以テ当地ニ於ケル本邦移民ノ声価ヲ向上スルノ要アリ
次ニ今回來着移植民三十九家族ノ最近職業別ヲ掲ゲ所謂農業移民トシテノ素質ヲ明カニセントス

当地海外興業株式会社支店員ノ調査

農業	十三
半農業	二
養蚕業	二
官吏	二
会社員及事務員	三
商業	五
大工、鉄工	六
軍人	五

諸種製造業

計 三九

一、めきしこ丸来着ト当地新聞「ガゼータ」紙
本年二月中旬北米電報ハ「ブルークリン・イーグル」紙
ノ所報ナリトテ日伯間ニ移民協約成立シ日本及伯国政府
保護ノ下ニ日本移民五十万人ヲ誘入スルニ決セリトノ虚
報ヲ報道セリ其レガ為メ在「リオ」市二流以下ノ諸新聞
ハ筆ヲ揃エテ排日の記事ヲ掲ゲ日本移民招致ノ非ヲ鳴ラ
シ一時紙面ヲ賑カセリ然ルニ当地諸新聞ハ当時右虚報ニ
関シ評論ヲ加フルモノナク単ニ該電報ヲ掲載セシニ不過
リシガ今回めきしこ丸輸送ノ移民「サントス」港ニ来着
スルヤ右「ガゼータ」紙ハ日本移民来ノ題下ニ出發港各
寄港地航海日数ヲ掲ケシ迄ハ無難ナリシモ本書添付同新
聞切抜ニ見ルガ如キ寄稿ノ挿画ヲ載セ本邦人面相ノ醜惡
ナルヲ絵ニテ示シ排日の気分ヲ煽揚セリ右参考ノ為メ付
言ス

一四八 四月二十八日 在サンパウロ春日總領事代理宛(電報)
内田外務大臣ヨリ

夫婦移民百家族ノ制限撤廃ノ事実照会ノ件

タル事実アリ夫婦移民ノ毎回渡航數ハ無補助移民ノ二分ノ
一(補助金復活ノ場合ニハ三分ノ一)ノ率ナレバ目下配耕
上差支ナシ

一五〇 四月三十日 在サンパウロ春日總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛

夫婦移民ヲ無補助家族移民ト區別セズ誘入方

ニ関シ稟申ノ件

付屬書 四月十九日付山田海外興業会社業務代理人ヨリ
春日總領事代理宛書翰

機密第五号

(六月十二日接受)

大正十二年四月三十日

在サンパウロ

總領事代理副領事 春日 廓明(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

夫婦移民誘入ニ関シ往電第七号ノ趣旨稟申ノ件

本月初旬山田移民業務代理人来館シ夫婦移民ハ大正九年中
移民収容所長ノ承認ヲ得試ニ老百家族ヲ誘入スルコトナ
リ以テ今日ニ至レルガ其殘數最早ヤ僅少トナリタルニ付今
後引統募集誘入セントスルニハ更ニ外務省ノ認可ヲ得ルノ

三 ブラジル移民関係 一五〇

第五号

一八二

貴地山田ヨリ海興ヘノ電報ニ夫婦移民百家族ノ制限ヲ廢シ
単ニ無補助移民トシテ募集差支ナキ旨貴官ノ承認ヲ得タル
由ナルガ事実ナリヤ回電アレ

一四九 四月三十日 在サンパウロ春日總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

無補助夫婦移民ノ區別撤廃事実ノ有無ニ関シ

回答ノ件

第七号 (五月二日接受)

貴電第五号ニ関シ

御下問ノ事実無シ 無補助移民ト夫婦移民ト需要程度差違
アルヲ以テ移入員數上其區別必要ナリト予テヨリ思考シ居
レリ尤夫婦移民ノ許可殘數僅少トナリタル処現ニ州当局ニ
於テハ無補助移民ト夫婦移民トノ區別ヲ為サズ從テ百家族
ノ制限ハ自然消滅ノ状態ナルニ付此際特ニ州当局ヨリ許可
ヲ受クル事ナク一律無補助移民トシテ引統キ移入スルモ支
障ナシ夫婦移民山田意見ニ對シ後日對当局問題發生ノ際
社側ニ於テ全責任ヲ負フベシトノ条件ニテ同意シ右小官ノ
諒解ヲ得タル旨同人ヨリ本社ヘ電報スルモ差支ナシト告ゲ

必要アル処客年補助金中止問題勃發ノ際州統領ハ無補助移
民ノ誘入ハ決シテ拒否セサルノミナラズ大ニ歡迎スト明言
セラレタルヲ以テ補助移民中止問題ト関連シテ從來顧慮セ
ル無補助移民問題ハ自然ニ解決セラレタル姿トナリタルノ
ミナラズ又實際ノ取扱振ニ就テ見ルモ会社ヨリ収容所長ニ
對シ無補助家族移民ト夫婦移民トノ區別ヲ付ケズ一率無補
助移民ノ名目ノ下ニ届ケ出テ単ニ補助移民トヲ區別スルノ
ミニテ事足ル次第ナリ即チ州政府ニ對シテハ事実上夫婦移
民老百家族ノ制限ハ自然消滅ニ歸シタルモノニシテ補助移
民ト同様到着後ノ無賃輸送収容所ノ無料宿泊等ノ特点ニ享
有シ得ルモノニ有之他面今日迄誘入セル夫婦移民八十一家
族ハ最初渡航ノ數家族ヲ除キ珈琲耕地ニ就働シ居ルニ鑑ミ
且殊ニ本年度補助問題ノ前途全ク不明ノ場合ナレバ右兩種
無補助移民ノ募集ニ全力ヲ注キ度キニ付事情御諒察ノ上夫
婦移民ノ引統誘入ノ議御承諾ヲ得度キ旨口頭ヲ以テ申出候
小官ハ是ニ對シ現下ノ事情ニ鑑ミ引統夫婦移民ヲ誘入スル
ハ差支ナキ意見ナルモ為念収容所長ノ内諾ヲ得置クコト万
全ナラズヤ尤モ書面ニテ之ヲ確ムルノ必要ナキモ唯口頭ニ
テ了解ヲ得タル上當館ヘ此旨文書ニテ届出アリ度シト告ケ

一八三

置候

後数日一海興移民部員来館シ本日收容所長ニ会見シ六月着ノ神奈川丸輸送移民表ヲ提出シタリ同表ニハ無補助家族ト夫婦ノ別ヲナサズ単ニ無補助移民ト記シ置キタルカ同所長ハ之ヲ一覽シ別ニ何等反問セサリシニ依リ自然夫婦移民誘入ニ対シ杞憂ヲ抱クノ要ナシト認メ所長ノ内諾ヲ得ルコトハ差控エタリトテ此儘夫婦移民ヲ誘入スルモ何等差支無キコトヲ縷々陳述スル所アリタルニ依リ然ラバ万々一将来州当局ヨリ苦情出テ問題惹起スル場合ニハ移民ニ何等迷惑ヲ及ホサス会社ニ於テ全責任ヲ負フコトヲ約スルニ於テハ所長ノ内諾ヲ得サルモ可ナル旨ヲ答ヘ置候

然ルニ二十日山田代理人来館シ別紙写ノ通りノ書面ヲ提出セルニ付夫婦移民誘入ノ件ハ異議ナシ但シ後日州当局トノ間ニ問題惹起ノ際ニハ会社側ニテ全責任ヲ負ハレタシト念ヲ押シ同人モ亦之ヲ承諾セリ尚小官ハ本件ニ関シ当方ヨリ此際本省ニ打電スルハ差控ユルモ貴下ヨリ本件ハ小官ノ了解ヲ得タルモノナルコトヲ打電スルハ差支ナシ本省ヨリ照電ニ接セハ早速此旨回電スヘシ尤モ許可家族数ニ関シ照会ニ接セハ談合ノ上当分ノ見込数ヲ回電スルコトトスヘシト

打電シ差支無キ趣御回答アリシニ依リ然ク打電セル次第ナリト弁疏致候小官ハ右文句ハ既ニ是迄数回貴下ガ口頭ニテ語ラレタル夫婦移民ニ対スル州当局ノ態度ニ鑑ミ此際特ニ收容所長ノ内諾ヲ得ルノ要ナシト云フ貴下ノ見解トモ云フヘキモノニシテ本邦ニ於ケル募集上ノ區別撤廃ノ議ニ関シ予ノ承認ヲ求メラレタルモノトハ全然認メラズ予ノ同意シタルハ他日ノ全責任ヲ会社ニ於テ負フベシトノ約束ノ下ニ收容所長ノ内諾ナクシテ此際引續キ夫婦移民ヲ誘入スルモ支障ナシト云フ貴見ヲ承認セシノミ況ンヤ本邦側ニ於ケル募集上ノ區別撤廃ニ関シテハ曾テ吾等間ニ言及セラレタルコトナキニ非ラスヤト告ゲカカル重大問題ヲ何等議スルコトナクシテ其儘承認スルガ如キコトアルヘキニ非ラズト語リタルニ同人ハ尚種々陳弁スル所アリタルモ結局同人ノ誤解ナルヘキ旨ヲ申述ヘ退館致候

元来二人構成ノ夫婦移民ハ三人構成ノ無補助家族移民ニ比シ募集容易ナルヲ以テ移民取扱人トシテハ募集上此兩者ノ區別ヲ撤廃セント希望シ居ルハ勿論ノ議乍ラ傭主タル耕主ノ立場ヨリ見ルトキハ夫婦移民ヨリ家族移民ヲ撰択希望スルハ又当然ノ儀ニシテ需要程度ヨリ見両者同日ノ談ニアラ

回答セルニ同人モ満足ノ態ニテ辞去致候小官ハ後日参考ノ為メ本回答ノ要領ヲ摘記シ該書面ト共ニ館員ノ回覧ニ付シ置候然ルニ二十八日午後貴電第五号ヲ以テ夫婦移民百家族ノ制度ヲ廃シ単ニ無補助移民トシテ募集差支ナキ旨小官ニ於テ承諾セル事実ノ有無御下問ニ接シ驚愕ノ念ヲ禁シ能ハサリシ次第ニシテ不取敢往電第七号ヲ以テ事実ニアラサルコトヲ開陳致置候

元来夫婦移民制度ヲ廃シ無補助家族移民ト一丸トシ単ニ無補助移民トシテ募集スル件ニ関シテハ彼我兩者間ニ於テ一回ト雖言及セシコト無ク過日来会談ノ問題ハ一ニ夫婦移民ノ引続誘入ニ関シ收容所長ノ内諾ヲ必要トスルヤ否ヤノ点ニ在リシモノニ有之候

依テ即日山田代理人ノ来館ヲ求メ本社宛電報ノ事情ヲ詰リタルニ同人ハ曩ニ提出願書中ノ「就テハ今後二種移民ヲ従前ノ如ク區別スルコトナク一率無補助移民ナル名目ノ下ニ誘入致シ候テ何等支障無之補助移民ト同様到着後ノ無賃輸送收容所ノ無料宿泊等ノ特点ヲ享有シ得ラルヘキモノニ御座候」及「此兩種無補助移民募集ニ全力ヲ注キ度シ」ノ二節ヲ指示シ本書記載ノ筋ハ既ニ御承諾ヲ得且ツ其旨本社ヘ

ズ從ツテ募集許可上此區別ヲ存シ夫々員数ヲ定ムルノ必要ナルコトハ予テヨリ小官ノ認ムル所ニ有之況ンヤ何等ノ議論モ経スシテ輕々之ガ區別撤廃ニ承認ヲナスカ如キ道理無之ノミナラズ他面本邦ニ於ケル移民募集ノ許否ハ小官処弁ノ限りニ無之ト思考罷在候

將又山田代理人提出ノ書面ニ依ルモ本邦ニ於ケル募集ニ際シ此區別撤廃ノ承認方ヲ願出テタルモノニ非ラサルコト明白ト存候

尚拙電末段ニ夫婦移民ノ毎回渡航数ヲ無補助家族移民数ノ二分ノ一(補助金復活ノ場合ニハ三分ノ一)トセルハ山田代理人ニ就キ現時配耕状態ヲ聴取セル結果当館ノ考慮ヲ加ヘタル比率ニ有之同人ニ於テハ無補助家族移民ト同率ニテモ配耕上差シタル困難ナシトマテ申居候

要スルニ州政府ノ伊国移民招致策ノ実現ノ行悩ヲ見各耕地主等シク勞力ノ不足ヲ歎ズル現時ノ状況ニ鑑ミ前記ノ比率ヲ以テセハ配耕上差支ヲ見ルコトナカルヘシト思考致候

右往電第七号答申ノ趣旨及稟申候 敬具

(付屬書)

四月十九日付山田海外興業会社業務代理人ヨリ春日總領事代理

宛書翰

大正十二年四月十九日

在「サンパウロ」市

総領事代理副領事 春日 廓明殿

海外興業株式会社

業務代理人 山田 揚之助

拝啓 大正九年野田総領事代理御在任中将来補助移民誘入中止ノ悲運ニ陥リタル際ノ準備トシテ夫婦移民誘入ノ議起リ当時弊社及「アンソーネス」会社ハ之ヲ行フニ何等州政府ト交渉ノ要ナキモノト確信シ直チニ其実行ニ入ラント致居候矢先同総領事代理ヨリ收容所長「フェラス」氏ト相談纏マリ先ヅ試ミニ一百家族ヲ送致ノ言約出来上リタル旨御口達アリタルヲ以テ弊本社ハ此旨ニ從ヒ外務省ノ御認可ヲ得百家族ヲ限度トシテ募集シ来リ大正十一年末迄ニ発送シタルモノ八十一家族二一六人之ニ本年三月発送ノ分八家族三十三人ヲ合算シ合計八十九家族二四九人ノ発送済トナリ最早残数僅カニ十一家族ヲ有スルノミト相成候今後此種移民ヲ引続キ募集誘入センニハ更ニ外務省ノ新タナル御認可ヲ得ルノ必要ニ迫ラレ居候前陳ノ如ク該移民ハ当初試験

解決ノ前途全ク不明ノ場合弊社ハ此兩種無補助移民募集ニ全力ヲ注度之レガ為メ至急新タニ外務省ノ御承認ヲ経ル必要有之候ニ付以上事由御諒察ノ上貴館ヨリ可然貴本省向ケ御報告方奉願上候

追テ午勝手右御報告ハ電報ニテ御発送方特ニ奉願候

敬具

一五一 七月二日

在サンパウロ春日総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛

本邦移民三十家族ニ対シ州政府ヨリ渡航費

補助金下付ノ件

付属書

六月二十二日付レフエヴル農務次官ヨリ海外興業会社社長宛書翰訳文

通移機密第八号

(八月二十二日接受)

大正十二年七月二日

在サンパウロ

総領事代理副領事 春日 廓明(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

「トランスヴァール」耕地行本邦移民ニ対シ州政府

ヨリ渡航費補助金下付ノ件

三 プラジル移民関係 一五一

的ニ百家族云々ノ口約ノ下ニ実施セラレタルモノナルモ昨大正十一年初頭補助移民中止問題勃発ノ際州統領「ワシントン・ルイス」氏ハ無補助移民ノ誘入ハ決シテ拒否セザルノミナラズ大ニ之ヲ歡迎スル旨明言シタルヲ以テ補助移民中止問題ニ関連シテ幸ニ從來願慮セラレタル無補助移民問題自然ニ解決セラレタル姿トナリ爾後夫婦移民ノ外ニ州法ノ示ス完全ナル家族移民ニシテ州ノ補助金ヲ受領セザルモノノ誘入ヲ何等制限ヲ受クルコトナク開始シ今日ニ至リ候而シテ此兩種移民ハ州政府ニ対シテハ何等ノ區別ヲ付スルコトナク一概無補助移民ナル名目ノ下ニ届出ヲ了シ単ニ補助移民ト區別スルノミ有之候即ハ州政府ニ対シテハ事実上夫婦移民百家族云々ノ義ハ自然消滅ニ帰シ何時トナク此制限撤廃トナリタルモノニ候就テハ今後如上ニ種移民ヲ従前ノ如クニ區別スルコトナク一率無補助移民ナル名目ノ下ニ誘入繼續致シ候テ何等支障無之補助移民ト同様到着後ノ無賃輸送收容所ノ無料宿泊等ノ特典享有シ得ラルベキモノニ御座候今日迄誘入シタル夫婦移民八十一家族ハ最初渡来ノ若干家族ヲ除キ他ハ皆珈琲耕地(会社選択ノ)ニ入り他家族移民同様就働シ居ル成績ニ鑑ミ殊ニ本年度補助移民

本件ニ関シテハ曩ニ不取敢拙電第一三号ヲ以テ申進置候処電文ノ意義敷衍前後ノ事情左ニ及具報候

「モヂアナ」鉄道「セラナ」駅ヨリニ基米突強ノ「トランスヴァール」珈琲耕地ノ所有主「ドクトル・アネミヲ・ド・アマラル」氏ハ夙ニ本邦移民ニ好感ヲ有シ又耕地トシテモ取扱条件相当良好ノ部ナル趣ニ有之候処頃日同氏ヨリ海外興業会社一社員ニ対シ若干本邦移民ヲ其ノ耕地ニ誘入シ度キ旨申出アリタル際同社員ハ本年一月来州政府補助金中止ノ次第ヲ申述ヘタルニ同氏ハ其後平素親交ノ間柄ナル農務長官「ペンテアード」氏ニ対シ其ノ所有耕地ニ誘入スル本邦移民三十家族ニ対スル補助金ノ下付方ヲ懇請シ先ツ同長官ヲ動かシ次テ州統領ニ力説セシメタル結果平素ヨリ本邦移民ハ珈琲耕地ニ落付カサル故珈琲耕地移民トシテハ不適当ナリト信シ居レル州統領モ遂ニ之ニ内諾ヲ与フルニ至リ候尚此間海外興業会社ハ外国移民誘入ニ関シ一大權威ヲ有スル州立移民收容所長「フェラス」氏ニ接近シ同伴ニ対シ好意的態度ヲ執ラシムルコトニ努力スル所アリ内実農務次官「レフエヴル」氏ガ幾分裁決ニ渋リ勝ノ状ニアリシニ不拘兎ニ角円滑ニ進捗シ遂ニ客月二十二日付ニテ農務次官ハ

別紙添付訳文ノ如キ書翰ヲ海外興業会社ニ交付シ「トラン
スヴァル」耕地ニ本邦移民三十家族入耕ノ件ヲ許可シ最高
額トシテ大人十七磅、半人八磅十志、四分ノ一人四磅五志
ノ渡航費ヲ給スヘキ旨ヲ通知スルニ至リ候尚同書翰ニ但書
ヲ以テ同種ノ請願ニ対シテハ新ニ許可ヲ与ヘサルヘシト付
言セルハ当局者ガ後日同耕地主其他ヨリ之ヲ前例トシテ同
種ノ請願ニ接スヘキ場合ヲ予測シ之カ予防ノ為付言シタル
マテノコトニシテ珈琲耕地行本邦移民ニ対スル補助ハ将来
断然許可セサルヘシト云フ程ノ強味アル意義ニテハ無之シ
トノコトニ候

今回ノ補助金下付ハ仮令一時的ノ少数移民ニ対スルモノナ
リトハ云ヘ平素珈琲耕地行本邦移民ニ対スル補助金下付ニ
対シ頗ル強硬ナル態度ヲ持セル州最高当局殊ニ州統領カ一
耕地主ノ懇請ニ対シ比較的容易ニ本件ヲ許可スルニ至リタ
ルハ聊カ意外トスル所ニ有之候モ是決シテ伊国移民其他外
国移民ノ来着数減退ニ起因セルニアラズ又当局ノ珈琲耕地
行本邦移民觀ニ特ニ急激ナル良化ヲ来セル次第第二モ無之現
ニ一昨年来伊聖兩政府間ノ懸案タル伊国移民ノ大規模招致
問題ハ未タ何等解決ヲ見ス不相交交渉行惱ノ状ニ察セラル

ヲ要ス近來渡航ノ移民中ニハ一見スルモ家長以下到底強烈
ナル勞役ニ堪エサルコト明白ナル家族ヲ含ム事例決シテ渺
カラス是等ハ入地後忽チ勞役及收入ガ甚タシク予期ニ反セ
ルコトヲ覺知シ旬日ナラズシテ契約ノ解除ヲ懇請シ来リ然
ラサレバ一年ノ期限満了ヲ一日千秋ノ想ニテ待チ兼テ居ル
有様ニシテ当地会社当事者モ亦撰択ノ頗ル杜撰ナルコトヲ
憤慨致居候實際渡來移民ノ素質如此ナルニ於テハ補助金復
活ノ為百方運動スルモ一時ノ僥倖ヲ待ツノ外何等ノ效果ヲ
奏スヘクモアラズト思考致候

次ニ拙電中ニ具陳セル通り海外興業会社ハ本補助費大人十
七磅ヨリ二磅宛（以下ノ者ハ従前ノ率ニ依ル）ヲ手数料ト
シテ申受隨意処分致度旨願出有之候其理由トシテ青柳重役
ノ説明スル所ヲ聴クニ同社ハ補助金復活ノ為今後トモ大ニ
努力スル決心ノ処従來通り政府当局ノ一部ト特殊關係アル
移民誘入業者「アンツーネス」会社ト提携シテ運動スルカ
現農務次官ト同商会主トハ姻戚關係アリト云ヒ兎角同商会
ヲ請願ノ仲介者タラシメントスル素振アリ又一面現長官ト
ノ間柄ハ必スシモ融和シ居ラズ等伝ヘラルルノミナラズ最
高当局ハ同商会カ永年諸外国移民誘入ヲ取扱ヒ来レル因縁

ルモ外国移民ノ渡來数ハ決シテ減少スルコトナク即本年七
月二日マテニ「サントス」港ニ上陸セル数二万二千七百余
人ニ達シ候又州統領ハ今尚耕地行日本移民ハ珈琲耕地ニ定
住セス故ニ珈琲耕地ニハ不適當ナリト信シ居リ最近之ヲ繰
返セリトノ趣聞及ヒ候故ニ今回ノ許可ヲ以テ不遠補助復活
ノ前程トシテ俄ニ問題ノ將來ヲ樂觀スヘキニ非ラザルト共
ニ今後努力方法如何ニ依リテハ有利ニ發展スルノ見込ナキ
ニ非ラサルヲ感知セシメ補助問題ノ前途ニ一点ノ微光ヲ認
メシムルモノト可謂候（況ンヤ現州最高政府ハ来年四月末
ヲ以テ任期満了スベク）從ッテ我方ニ於テハ機會アル毎ニ
本邦移民力漸次珈琲耕地ニ定着スル傾向ヲ有スル事實ヲ実
証ヲ以テ了解セシムル様努力セサルベカラズ即各珈琲耕地
ニ於ケル邦人就働ノ統計一覽表ヲ提出シ或ハ耕地主ヲシテ
就働ノ実狀ヲ宣明セシムル等ノ方法ヲ執ルト共ニ又實際ニ
於テ優良ナル移民ノ渡航ヲ計ラザルヘカラズ即現時ニ於テ
モ地方募集人ノ常用手段タル誇張ノ「プロパガンダ」ヲ取
締リ耕地労働ノ如何ナルモノナルカラ能ク了解セシメ其撰
択ハ単ニ家長ノ經驗体力ノミニ留意セズ家族本位ノ見地ヨ
リシテ全員耕地労働者トシテ好適ナル家族ノミヲ嚴撰スル

アルニ拘ラス兎角之ヲ欲セサル傾向アリ（現ニ昨年末同商
會ハ例年通り本邦移民ヲ含ム外国移民誘入ノ件ヲ請願セル
モ今日迄何等指令ヲ与ヘスト云フ）將又此際同商会ト離レ
全然他ノ有力ナル方面ヨリシテ行動スヘキカ蓋シ充分考慮
ヲ要スル問題ニシテ何レニモセヨ相当經費ヲ必要トスル次
第ナレバ今回ノ二磅ハ所謂会社ノ收入金トシテ取扱ハス補
助問題解決ノ為メ有意義ニ使用スル所存ナルニ付承認アリ
度キ旨ヲ切言致候加之従來同商会ハ海外興業会社ト共ニ一
磅宛ノ手数料ヲ得居リタル關係ヲ口実ニ（昨年ハ州政府ノ
意向ニ依リ一磅ヲ減シ海外興業会社カ直接受命セル為メ之
ヲ与ヘザリシ処時折不平ヲ並ヘタリト云フ）且ツ今回ハ一
磅増額ヲ云々シ一磅ノ手数料申受方ヲ繰言シ居ル由ニテ將
來ノ形勢如何ニ依リテハ或ハ之ヲ給スル方得策トナスニ至
ルヤモ不計トノコトニ付旁小官ハ此複雑セル事情ニ鑑ミ之
ヲ承認スルモ差支ナシト思考シタル次第第二有之候

尚当地珈琲農年ハ十、十一月ノ交ニ開始シ此機ニ入耕スル
ハ耕地主ニモ亦移民ニモ双方都好都合ニシテ本移民ハ成ルヘ
ク十月マテニ到着セシメント兩者希望シ居ルニ付此旨ヲ拙
電中ニ付記シ置候

此段具報申進候 敬具

本信写送付先 在伯大使館 在リベロン・プレト分館

(付屬書)

六月二十二日付レフェヴル農務次官ヨリ海外興業会社社長宛書

翰訳文

拜啓陳者農務長官ハ本月二十一日付ヲ以テ千九百十三年七月九日付法令第二、四〇〇号各条ニ基キ「アネジオ・ド・アマラル」氏所有「クラヴーニョス」「ツランスヴァール」耕地ニ入耕スヘキ日本移民三十家族ノ契約誘入ノ件ニ許可ヲ与ヘ候而シテ其補助金ハ大人拾七磅、半人八磅十志、四分ノ一人四磅五志ヲ超過スヘカラサルモノニ有之候
右便宜及通知候
尚同日付ヲ以テ将来此種認可ハ付与セサルコトニ決定相成候条此段申添候 敬具

千九百二十三年六月二十二日

農商工務省総務長官

エウゼニオ・レフェヴル(署名)

在サンパウロ

海外興業株式会社社長殿

一五四 九月二十六日

在サンパウロ齋藤総領事ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

震災罹災者救済策トシテノ移民送出計画ニ関

シ意見具申ノ件

第二七号

(九月二十八日接受)

貴電第二二二号ニ関シ

前段ノ件ハ海興ノ依頼ニ応シ往電第二五号ヲ以テ所報ノ通差支ナシ後段ノ件ハ海興其他先住者ニ聞クニ一般ノ意見トシテ都市生活者ハ従来ノ成績ニ徴シ仮令労働ニ耐ヘ且農労働ノ目的ヲ以テ渡航セル者ト雖モ入耕後田舎生活ヲ厭ヒ概ネ一旦都市ニ転住スルヲ常トシ然モ都市ノ生活費ハ不廉ニシテ結局面白カラス或ハ帰国シ又ハ一部止ムヲ得ス再ヒ帰耕セルモノモ成績良好ナラスト云フ故ニ罹災者救済策トシテ渡伯セシムルハ本人ノ為ニモ将タ当国ヲシテ本邦人移殖民発展地タラシメント期スル一般政策上ヨリモ共ニ可ナルヲ見ス乍併目下珈琲園労働者補給難ノ現状ヨリ観測シ夫婦移民及単労働者ヲ多少誘致スルモ就職難ノ惧ナシ海興ノ述フル所ニ依レハ夫婦移民ハ現今珈琲園ニ於テ家族構成移民ト同様ノ待遇ヲ蒙リ喜ンテ之ヲ受ケ容ルルヲ以テ其渡航数

三 ブラジル移民関係 一五四

一五二 九月十四日

山本外務大臣ヨリ
在サンパウロ齋藤総領事宛(電報)

震災罹災者救済ノ為ノ伯国渡航計画ニ関シ意

見回示方ノ件

第一八号

今回震災ノ罹災者中伯国渡航ヲ希望スル者ノ有無ハ尚ホ見込立タサルモ希望者アル場合ハ斯ル特別ノ際ナルニ願ミ労働ニ堪ヘ得ヘキ者ナラハ家族ヲ構成セルト独身者タルトヲ問ハス成ルベク渡航セシメタキ処右ニ対スル貴見並向フ一年間ニ於テ伯国ノ受入レ得ヘキ前記渡航者数ノ限度大体見積リ回電アレ

一五三 九月二十日

伊集院外務大臣ヨリ
在サンパウロ齋藤総領事宛(電報)

震災ノ為メ遅延セル海興振補助移民ノ送出ニ

関シ照会ノ件

第二二号

九月十日田付大使宛電照セル海興振補助移民ハ震災ノ為メ九月中送出シ難キニ因リ十月船ニテ発送差支ナキヤ海興支店ヘ問合せ其結果及往電第一八号ニ関シ至急回電アレ

ニ制限ノ設クルノ要ナシト称スレトモ園主ノ希望スル処ハ家族構成タルヤ論ナク第一単ニ移民ノ立場ヨリ觀察スルモ働キ人ノ多人数ナル方概ネ良成績ヲ挙げ居ルヲ以テ成ルヘク夫婦移民ヨリ家族構成移民ヲ奨励ノ見地ヨリ前者ニ対シ相当制限ヲ設クルヲ至当トシ第二補助移民ハ直ニ復活ノ望ナキモ形勢ノ推移ニ依リテハ全然脈ノ絶ヘタルモノニアラサル今日夫婦移民ヲ多数ニ送出スルハ補助移民復活ノ途ヲ杜塞スルコトトモナリ望マシカラサルヲ以テ年四百家族内外毎船二十五家族位迄ニ増加スルモ可ナラン又単独移民ハ一処ニ定着セシムルコト不能且本邦人ノ性質ヨリ組合事業ニ不向キ(不明)トシテ不適ナルモ契約ニ依ラサル日傭労働者トシテ(給料ハ普通食事付四「ミル」見当)職ヲ得ルニ難カラス乍併此ノ労働者ノ移入ハ最初ノ試ミニシテ果シテ良結果ヲ齎スヘキヤ疑ナキ能ハサルヲ以テ是又毎船二十五名ヲ限トシ試験的実行ニ止メルコトト致シタシ而シテ其ノ成績如何ハ将来ニ影響スル所アルヲ以テ地方農民中ヨリ実現スルヲ最緊要トス要スルニ都市罹災者救済策トシテ之ヲ渡伯セシムルハ決シテ取ル所ニアラス

三 プラジル移民関係 一五五 一五六

一五五 十月六日 伊集院外務大臣ヨリ
在サンパウロ齋藤総領事宛(電報)
単独移民渡航者数増加方法攻究方ニ関シ訓令
ノ件

第二十七号

貴電第二十七号ニ依レバ単独移民ノ渡航数ハ毎船二十五名ニ
限ラレタル処其数ヲ増加スル方法トシテ貴地ニ定着セル邦
人農業者ガ其農園又ハ家庭ニ単独者ヲ雇傭スル希望アルヤ
ヲ確メ其数及雇傭条件ヲ定メシメ回報アリタシ
尚他ニ単独移民又ハ家族移民ノ数ヲ増加スル方法御攻究ノ
上結果回電アリタシ
本電信本大臣訓令トシテ在パウルー多羅間副領事ヘ転電ア
レ

一五六 十月十四日

在サンパウロ齋藤総領事ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

単独移民ハ増加セザル旨及ビ夫婦移民ハ多少
ノ増加方支障ナキ旨回報ノ件

第四四号

(十月十六日接受)

貴電第二十七号ニ関シ

本邦人労働者殊ニ外人農園ニ就働セル経験ナキ新渡来者ハ
本邦人雇主ニ対シテハ我儘氣随ニシテ勝手ノ注文苦情ヲ並
ブル癖アリ基礎確実ナル本邦人園主ハ寧ロ却テ外人労働者
ヲ歡迎スル傾アリ尤モ昨今農産物ノ好景氣ナルニ委セ農家
ハ一般ニ不相応ニ手ヲ拵ゲ居リ何レモ労働者ノ必要ヲ生ズ
ルコト切ナリ然シ其内ニハ無理算段ヲ為シ居ル丈ケ一朝不
景氣ノ襲来スルヤ賃銀ノ不払ヲ醸シ労働者ト葛藤ヲ生ズル
モノ多々アルヘク且日雇労働者ハ臨時的性質ノモノニシテ
今日ノ所要数ハ以テ渡来ノ「コロノ」標準ト為シ難シ故ニ
本邦人園主ニシテ労働者雇入れ希望ノ者ハ其都度領事館ニ
呼ビ寄セ証明ヲ願出シメ之ニ対シ成ルヘク寛大ノ扱ヒヲ為
スコトセバ可ナラン

抑々農園労働ニ取り最モ有利ナルハ「コロノ」トシテ間接
ノ利益ヲ挙グルニ在レドモ単独労働者ハ今日「コロノ」ト
シテ就職ノロナク又単独労働者トシテ渡来スル者ハ何レモ
丁年以上ニテ早晚婚姻セザルヘカラサルモノナルモ当地ニ
於テ適當ノ婦女ヲ求ムル能ハズ現住者モ之ニ窮シ之ガ為幾
多ノ罪惡ヲ醸シ居レルニ鑑ミ寧ロ渡来スル前迎妻夫婦相携
ヘ渡航セシムル方本人ニモ利便ナル而已ナラズ今日ノ低廉

及進達候 敬具

(付屬書)

新移民上陸状態視察復命書

大正十二年十月十五日

外務通訳生 嶺 昌

伯国「サンパウロ」州珈琲耕地ニ就働スベキ自費契約移民
五家族十八名及「イグアペ」郡内海外興業会社経営「セー
テバーラ」殖民地行キ殖民十二家族六十二名外ニ呼寄十三
名合計九十三名ノ前記会社取扱移民並ニ同社扱ニアラザル
自由渡航者十名ヲ搭載シ大正十二年六月三十日横浜港ヲ出
帆セシ大阪商船会社南米航路船「シアトル」丸ハ途中六十
八日ノ日子ヲ費シ予定ノ通り九月五日「サントス」港ニ安
着セリ

一、船内ニ於ケル移民一般状態

本邦出帆後間モ無ク小児ノ間ニ輕症ナル麻疹流行シタル
モ新嘉坡寄港前後ヨリ終熄シ且從來ノ例ニ依レバ概ネ航
行中ニ少クトモ一二名乃至三四名ノ死亡者ヲ出シタルモ
今回ハ幸ニ一モ斯ル凶事ヲ見ルコトナク渡航者全部無事
「サントス」ニ着シ船内ニ於ケル一般衛生状態ハ頗ル良

ナル賃銀ニテ果シテ幾何ノ余財ヲ蓄ヘ将来向上ノ資ニ供シ
得ヘキヤ不明ナルヲ以テ此際単独者ノ渡航数ハ前電ノ数ニ
止メ試験ノ上増減スルコト致シタシ其代リ夫婦移民ノ数
ハ農園労働ニ従事スヘキモノノ選択ヲ怠ラサル限り多少増
加スルモ配耕ニ支障ヲ見ズ右多羅間副領事トモ協議済ミ

一五七 十月十五日

在サンパウロ齋藤総領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

新来移民ノ上陸状況ニ関スル嶺通訳生ノ視察
復命書進達ノ件

付屬書 右視察復命書

通公第一二〇号

(十二月十五日接受)

大正十二年十月十五日

在サンパウロ

総領事 齋藤 和(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

新来移民上陸状況視察復命書進達ノ件

本年九月五日「サントス」港到着「シアトル」丸輸送ニ係
ル新来移民到着ノ当日同港ニ出張ヲ命ゼラレ移民ノ上陸
状況ヲ視察セシ嶺通訳生ヨリ別紙復命書提出有之候ニ付右

三 プラジル移民関係 一五七

好ナルヲ得タリ之レ一ハ移住者数サシテ大ナラザリシニモ依ルベシト雖モ船員側ノ注意周到ナリシト輸送監督者其人ヲ得タルニ因ル所大ナルベシト信ゼラル其他船内ノ設備食事等ハ從來屢具報セシ所ト異ナラザルヲ以テ之ヲ省略ス

二、「サントス」上陸状況

本船ハ予定ノ通り九月五日「サントス」ニ入港シタルモ投錨セシハ日没後ナリシヲ以テ翌六日朝移民検査官出張八時半移民ノ上陸ヲ開始シ約三十分ニテ無事終了二台ノ客車ニ分乗「サントス」駅発車十二時五十二分「サンパウロ」市「ブラス」駅ニ到着無事移民収容所ニ入レリ尚ホ同船シタル自由渡航者(三等船客)数名モ労働ノ目的ヲ以テ渡伯シタルモノナリシヲ以テ総テ本人ノ希望ニ依リ「サントス」「サンパウロ」間及目的地マデノ無賃乗車六日間収容所ニ於ケル無料宿泊等凡テ其他ノ移民ト同様ノ取扱ヲ受ケタリ

三、移民収容所内ノ動静

六日移民収容所ニ到着セル移民ハ翌朝規定ノ通り旅券ノ検査、入所登録、目的耕地若クハ農園ノ取極メ等ヲ了ノ無賃輸送乗船地滞留中ノ無料宿泊其他取扱人手数料免除等ノ特典ニ浴セルニ拘ハラズ尚其数カ僅少ナルハ如何ニ移民募集ノ困難ナルヤヲ示シ之カ撰択等ハ到底望ミ得ザルコトナルヤ難必キモ今回ノ移民十二家族中佐久間、瀬戸、茂木、山口等ノ四家族ハ「セーテバラス」殖民地到着後僅々十数日ニシテ到底同殖民地ニテハ成功覚束ナシトノ薄弱ナル理由ノ下ニ当地海興会社支店ニ破約ヲ申出テ「アルゼンチン」ニ転渡ヲ希望シ居レリ一見当初ヨリ殖民者タルノ資格ナキヲ察知シ得ラレタリ故ニ募集ノ際今一層叮嚀ニ移住地ノ実況等ヲ説明シタランニハ渡航後ノ紛擾ヲ予防シ得タルベシト思考ス

一五八 十月十九日

在サンパウロ齋藤総領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

新来移民輸送及ビ上陸状況ニ関スル齋藤通訳

生ノ視察復命書報告ノ件

付属書 右視察復命書

通公第一二二号

(十二月十五日接受)

大正十二年十月十九日

在サンパウロ

三 ブラジルの移民関係 一五八

シ八日「サントス」ヨリ到着セル荷物ノ検査ヲ受ケ目的地ニ從ヒ同日ヨリ十日未明マデニ隨時「サンパウロ」ヲ出發セリ収容所滞在中幸ヒ一名ノ病者ヲモ出サズ何レモ元氣ニ見受ケタリ

因ニ移民ノ携帯金ニ就テハ曩ニ大正十年七月十日付通公第九八号ヲ以テ進達セシ復命書ニ具申シ置キタルガ当地ニ於テ邦貨幣ノ需要英米貨等ニ比シ尠ク両替相場格安ニシテ邦貨十円紙幣ハ売値英貨一磅ヨリ却テ低廉ナルヲ以テ邦貨ヲ携帯スルハ甚ダ不得策ナルヲ免レズ宜シク出發前英貨ニ替ヘテ携帯スルカ若クハ海外興業会社本社又ハ正金銀行ニ預托送スベシ然ルニ今尚邦貨ノ儘持参来リ渡航前聞知セル為替相場ト現金両替相場トノ差額余リ大ナルニ一驚スルモノ尠カラザルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ現ニ今回彼等ガ収容所内両替店ニ於テ両替セル相場ハ四「ミル」二百「レース」ニシテ現今ノ為替相場邦貨一円ニ付五「ミルレース」強ナルニ比シ其間実ニ八百「レース」ノ差額ヲ存セリ

四、移民ノ素質

今回ノ移民ハ移民奨励ノ趣旨ニヨリ国許ヨリ乗船地マデ

総領事 齋藤 和 (印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

齋藤通訳生提出新来移民輸送及上陸状況視察復命書進達ノ件

書進達ノ件

本年八月七日移民六十七名ヲ搭載シ横浜港ヲ出帆シタルめきしこ丸ガ「サントス」入港ノ当日齋藤通訳生ニ同市出張ヲ命シ移民上陸状況ヲ視察セシメ候依テ同通訳生提出ニ係ル別紙復命書及進達候条御査閱相成候様致度此段申進候

敬具

(付属書)

新来移民上陸状況視察復命書

外務通訳生 齋藤 武雄

海外興業株式会社取扱第二十九回伯刺西爾行移民六十七名ヲ搭載シ本年八月七日横浜港ヲ出帆シタル大阪商船会社汽船めきしこ丸ハ各寄港地ヲ経テ途中船足恙無ク十月十四日目的地「サントス」港ニ入レリ此日天氣晴朗ニシテ新来同胞ノ満面喜色アリ

小官命ヲ帶ヒテ同港ニ出張シ輸送状況ニ関シ高級船員並ニ移民ヨリ聴取セシ所ヲ左ニ項ヲ分ツテ略述セントス

一、輸送状況

今回めきしこ丸輸送ノ移民ハ少数ナリシ為メ海興会社ハ輸送監督者ヲ特派セスシテ南米航路ニ経験ヲ有スル小林事務長ニ輸送並ニ監督ヲ一任セリ

小林氏ハ曾テ秘露ニ於テ契約移民ノ監督タリシ経験アリ移民取扱ノ要諦ヲ会得セシ仁ナルト一面今回来着移民ノ殆ント全部ガ純農者ナルト相俟テ移民輸送船ニ有リ勝ちノ不平紛擾モ無ク満足ニ目的地ヘ到着シ得タルハ真ニ幸福ナリト可謂

一、船内衛生

航海中悪疫伝染病ノ發生ナカリシノミナラズ脚氣「トラホーム」ノ如キ当地官憲ノ危険視スル病氣ニ罹リシ者ナカリシ為メ「サントス」港ニ於ケル檢疫モ至極簡單ニ終了シ一人モ洩レ無ク上陸セリ

尚航海中男女各一名ノ出生アリ母子共健全ニ到着セリ是レ船医ノ注意尽瘁其宜シキヲ得タルニ因ルヘシト雖航海中ノ氣候常ニ清涼ナリシモ亦預ツテ力アリシナラン

一、食事、風紀

大阪商船会社汽船カ伯国行移植民輸送ニ着手セシ当初ハ

テ入耕スルコトナレリ

一五九 十月二十四日 在伯国田付大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

レイス下院議員黃色人種入国制限ヲ含ム欧州

移民奨励法案ヲ下院ニ提出ノ件

第六六号

(十月二十六日接受)

「ミナス」州選出下院議員 Fidelis Reis ヨリ 黃色人移民ノ入国制限ヲ含メル移民法律案ヲ十月二十二日連邦下院ニ提出セリ右法律案ハ七箇条ヨリ成ル第一条ニ於テ欧州農業家族移民ノ渡来ヲ奨励スルト同時ニ第四条ニ於テ「政府ハ国民ノ人種の精神的及体力的組成ニ有害ト認ムル有ユル分子ノ入国ヲ阻止スルタメ其何レノ地ヨリスルヲ問ハス伯国ニ向ツテ渡来スル移民ニ関シ嚴重ナル取締ヲ行フヘシ」ト定メ次ニ第五条ニ於テ黒人種ノ植民ハ伯国ニ入ル事ヲ禁ス又黃色人種ニ関シテハ「該人種ニ属スル国内現在者ノ百分ノ三ニ相当スル人数タケ毎年入国ヲ許可スヘシ」ト規定セリ又法案提出者カ演説シタル理由中ニハ本邦人ハ望マシカラサル移民ナリトテ明白ニ之ヲ排斥セリ尚右法案ハ当国ノ

移民ニ給スル食事並ニ船内風紀ニ関シ兎角ノ批難惡評アリシガ近頃船会社側ニ於テ此二点ニ対シ充分ノ注意ト監視ヲ怠ラサル結果大ニ改善セラレタルヲ認ム

一、上陸当時ノ服装

近來渡伯ノ移民中ニハ事務員店員等本邦ニ於テ都市生活ヲ營ミ移植民ニ不相応ナル美服ヲ身ニ纏ヒテ上陸シタル者比較的多數アリシ為メカ内外人ヲシテ驚異ノ感ヲ起サシメ且耕地生活ニ堪フルヤ否ヤヲ疑ハシメタル例不尠シガ今回ノ渡来者ハ純農者多數ナリシ結果孰レモ質素ナル服装ニテ上陸シ人意ヲ強カラシメタリ尚彼等ハ埠頭ニ待受ケタル列車ニ便乗十五日午前八時五十分「サンパウロ」市収容所ニ向ケ「サントス」港ヲ出發セリ

一、移民ノ入耕

十五日午後一時収容所ニ入りシ移民一同ハ荷物ノ到着ヲ待チツツ二日間ノ休養後十八日早朝夫々耕地ニ向ケ「サンパウロ」市ヲ出發セリ

因ニ「サントス」入港七日前突然肋膜炎ヲ患ヒタル北友輝(十五年七ヶ月)ハ着聖後海興会社支店囑託医師ノ診断ヲ受ケ同医師ノ取計ニテ当市慈善病院ニ入院快癒ヲ待ツ

憲法及国情等ヨリ推シテ到底議會ニ於テ可決セラルル事無カルヘキ見込不取敢

南米各館ヘ郵スミ

一六〇 十月二十五日 在伯国田付大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

レイス移民法案ニ対スル伯国政府ノ態度報告

並ニ我方対策ニ付意見具申ノ件

第六七号

(十月二十七日接受)

往電第六六号ニ関シ

十月二十四日特ニ外務大臣ヲ往訪シ伯国政府ノ意向ヲ叩キタルニ同大臣ハ本件法案ニ対シテハ毫モ重キヲ置カズシテ曰ク昨年「サンチアゴ」會議ニ於テ亜国愛國党ヨリノ日本人排斥建議ニ対シ断然之ヲ認容スベカラザル旨ヲ伯国全權ニ訓令セル事實ニ照ラシ移民問題ニ対スル伯国政府ノ態度ハ頗ル明瞭ナル次第ナレバ這般法案ノ如キモ固ヨリ之ヲ認可スベキニアラズト

猶同大臣ハ該法案ガ外交委員會ノ為ニ擲潰サルルヤモ知レザルモ法案提出者トハ相知ノ間柄ナレバ好機ヲ得テ注意ヲ加ヘ置クベシト付言セリ更ニ「ド・フォリヤ」氏(駐日伯

国大使)モ亦同法案ヲ一笑ニ付シ去リテ曰ク来年一月ニハ総選挙期ナルニ付議員ハ再選ニ腐心シ居ル際トテ該法案ノ如キモ再選ノ為ノ宣伝ニ外ナラザルベク固ヨリ他ノ耳目ヲ惹クニ足ラザルベシト

要スルニ本件法案カ議會通過ノ見込ミ全ク無之モノノ如ク万一有之トスルモ政府ハ之カ実行ヲ妨クヘキハ明確ナリ乍併之ヲ北米ノ例ニ顧ルニ提案者ハ毎年之ヲ繰返ス憂ナシトモ限ラレス殊ニ民間ニハ之迄日本移民排斥ノ論文ヲ公ケニセルモノ多少有之タル事実ニ鑑ル時ハ識者間ニ相当共鳴者アルヘキヲ想像スルニ難カラス尤モ米国情ヲ以テ直ニ当国ヲ(脱)カ如キハ素ヨリ早計タルヲ免レサルモ禍カ何時モ不思議ノ辺ニ起ル事例ニ鑑ル時ハ伯国政府カ尚相当我國移民ニ対シ好意ヲ有シ居ル際ニ好機ヲ逸セス速ニ成ル可ク多ク我移民ヲ伯国ニ送り一日モ早ク伯国ニ於ケル右地盤ヲ鞏固ニ築上ケ置クノ要アルハ誰人モ之ヲ疑フモノナカルヘシ就テハ我政府モ其辺ニ留意セラレ成ルヘク多クノ移民ヲ成ルヘク速ニ当国ヘ送ラルル様御覚悟切望ニ堪ヘス前文外務大臣ノ談話中大臣ハ葡国及伊国トモ移民ヲ出スコトニ就テハ目下夫々苦情ヲ申出デ思フ様運ビ兼ネ居ル際何

(不明)ニ非サル移民ノ入国ヲ制限セントスル總テノ案ニ反対ノ建議ヲ連邦議會ニ提出セラレン事ヲ要望ス之ニ対シ Carlos Botesy カ幾分反対的語調ヲ以テ応対セル外(不明) Mario 其他ハ日本移民ニ対シ頗ル有利ナル意見ヲ論述シ中ニハ日本移民ハ寧ロ奨励誘致スヘキモノナリト迄賞揚セルモノアリ結局「ボテシー」迄モ賛成投票ヲナシ「パズア」案終ニ裁可セラレタリ

右南米各館ニ郵報済

一六二 十月二十九日

在伯国田付大使ヨリ
伊集院外務大臣宛

伯国連邦議會下院ニ提出ノレイス移民法案ニ

関シ詳報ノ件

付屬書 移民法律案和訳文

通移機密第一四号

(十二月八日接受)

大正十二年十月二十九日

在伯

特命全權大使 田付 七太(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

排日移民法案伯国連邦議會ニ提出セラレタル件

三 プラジル移民関係 一六二

スレゾ日本移民ノ渡来ヲ排斥スルヲ得ムヤト言ヘリ当国新聞ニ拠レバ当国移民官ハ葡国移民ニ対スル身分証明書類ノ取締厳シ過グルヲ以テ葡国移民ヲ送ルベカラズトノ宣伝葡国新聞間ニ行ハルル趣ナリ伊国ニ就テハ大臣ノ語ルトコロニ拠レバ同国移民ニ対スル要求条件過重ニテ折合付キ兼ヌルガ如シ

南米各公館へ郵送済猶本電前電ト共ニ伊西兩國へ郵送済

一六一 十月二十九日

在サンパウロ斎藤總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

レイス移民法案ニ反対セルパズア提案採決ノ

件

第三八号

(十月三十日接受)

在伯大使宛外務大臣宛往電第六六号ニ関シ
州上院議員 Pachá Salles ハ二十六日州議會ニ於テ連邦下院議員「レイス」ノ有色移民制限案ニ反対シ伯国ハ目下黒色移民ニ対シ危惧ヲ感シ居ラサル事ヲ略述シ次ニ黄色移民殊ニ日本移民ガ伯国富源ノ開発ニ貢獻スル事決シテ欧州移民ニ劣ル事ナク政府力之ニ制限ヲ加エントスルハ正当ノ挙ニ非サル事ヲ演説シ大要次ノ如ク提案セリ

本月二十二日「ミナス・ジェラエス」州選出下院議員「フイデリス・レイス」(Fidelis Reis)ヨリ連邦議會ニ提出シタル移民法律案ハ往電第六六号ヲ以テ不取敢概略報告シ置キタル如ク第四条ニ於テ「政府ハ国民ノ人種的精神的及体力的組成ニ有害ト認ムル有ユル分子ノ入国ヲ遮止スル為其ノ執レノ地ヨリ出ダシ来ルヲ問ハス伯刺西爾ニ向テ渡来スル移民ニ関シ嚴重ナル取締ヲナスベシ」ト規定シ続イテ第五条ニ於テ「黒人種ノ植民ハ伯刺西爾ニ入国スルコトヲ禁ス又黄色人ニ関シテハ該人種ニ属スル国内現在者ノ百分ノ三ニ相当スル人数タケ毎年入国ヲ許可スヘシ」トノ規定ヲ含ミ所謂有色人種ノ移植民ヲ排斥スルヲ以テ目的トシ結局本邦移民ノ入国数ヲ毎年一千数百名ノ少数ニ制限セントスルモノニシテ議員「フイデリス・レイス」ハ右法案ヲ提出スルニ当リ其ノ理由トシテ「欧州諸国ニ於ケル大戰後ノ激烈ナル生活難ハ多数ノ人民ヲシテ海外移住ヲ企望セシメツツアルニ拘ラス從來欧州移住民ノ最好目的地タリシ北米合衆國ハ近來外国移民ノ入国数ニ嚴重ナル制限ヲ加ヘタルニヨリ彼等ハ已ムヲ得ス其ノ方向ヲ転シ南米ニ向テ集来セントスルノ新機運ニ際会セリ而シテ伯國ハ亞國ト同シク最多

数ノ外国移民ヲ需要スル国柄ナルヲ以テ此等欧州移民ハ盛ニ之ヲ招致シ且大ニ之ヲ歡迎スルノ手段方法ヲ講セサル可ラサルモ之ト同時ニ同化困難ナル異人種ノ移民ハ之ヲ排斥セサルヘカラス現ニ北米合衆國濠州及南阿ハ黄色人種ノ移民入國ヲ禁止シ加奈陀モ亦之ニ對シテ制限策ヲ採用セリ吾人ハ「サンパウロ」州ニ於ケル珈琲ノ收穫ヲ救済スル為日本移民ノ誘入ヲ勸告セル「アントニオ・ブラド」氏ノ説ニ賛成スルコト能ハス元來此ノ問題ハ單ニ經濟上ノ利害ノミヲ以テ決スヘキモノニアラスシテ更ニ數層倍重要ナル伯國民ノ人種の組成上ヨリ慎重ニ之ヲ考量スルコトヲ要ス近來「サンパウロ」州カ日本移民誘入策ヲ採用セルコトハ吾人ノ賛成シ難キ所ニシテ同州ハ目前ノ經濟問題ヲ解決スル為ニ後患ヲ伯國ニ遺スモノトイフヘシ同州ヘハ千九百十八年ノ一年間タケニテ六千名ノ日本人ヲ誘入シタルカ彼等ハ今日農耕地ノ所有者トナリ其ノ所有地面積十萬町歩^{エタール}ニ及ヘリ日本人ハ今ヤ總數三萬ヲ超ヘ同州ノ海岸地方ヨリ漸次内地ニ進入シ既ニ三角「ミナス」地方ニマテ蔓延セルモ彼等ノ増加進展ヲ拒止スルニハ時未タ晚カラス吾人ハ今人種ノ優劣ニ就キテハ議論スルヲ欲セサルモ「スペンサー」ハ日本

人ト「アングロ・サクソン」人トノ混血ハ好結果ヲ与ヘストイヘリ昔日黑人種ヲ誘入シタルノ過誤ヲ經驗セル吾人ハ今復黃人種ヲ誘入シテ同一ノ過誤ヲ繰返スヘキニアラサルヲ以テ黄色移民ノ大規模輸送ニ對シテモ吾人ハ黑人種誘入ト同様ニ之ヲ禁止センコトヲ切望ス現ニ亞國ハ東洋ヨリ來ル黄色人種即チ支那人及日本人ノ入國ヲ拒止シテ移民ノ淘汰ヲ實行シツツアルニアラスヤ云々トノ趣旨ニテ一場ノ演說ヲナシ要スルニ本件提案者ハ專ラ人種の偏見ニ基キテ人種ヲ異ニスル移民ヲ排斥セントスル者ナルコトヲ告白セリ又本案提出者ノ閱歷ハ曾テ約二年間連邦政府ノ移民官トシテ某々ノ二州ニ派遣セラレ次ニ千九百八年頃「アッフォンソ・ペンナ」大統領ノ任期中當時ノ通信農工務長官ノ囑託ヲ受ケ亞國ニ於ケル猶太人植民協會經營ノ猶太人植民地ノ狀況ヲ視察シタルコトアリ越ヘテ千九百十三年ニハ「ミナス・ジェラエス」州ノ囑託ニテ欧州移民ヲ多數ニ同州ニ誘入センカ為伊太利其他ノ諸國ニ於ケル移民事情ノ調査ニ從事シ伊太利人ト謀リテ伊國移民ノ誘入ヲ企画シタルモ間モナク世界戰爭勃發シタルニヨリ遂ニ實行ヲ見ルニ至ラスシテ了レリトイフ

而シテ上記移民法案ハ其ノ基礎ヲ純然タル人種偏見ノ上ニ置クモノナルヲ以テ人種平等ヲ以テ根本義トセル伯國憲法ノ精神ニ違反スルノミナス伯國人中ニハ黑人ヲ始メトシ黑人及印甸人ノ血統ヲ伝フル者甚タ多數ナルニ鑑ミ到底議會ヲ通過スルノ見込ナキモノト觀測セラルルモ本件ハ本邦人移植上ヨリ見テ目下殆ド唯一トモ稱スヘキ當伯國ニ於ケル將來ノ邦人發展ニ直接ノ關係アル重大問題ナルヲ以テ念ノ為往電第六七号ヲ以テ申進候通り十月二十四日外務長官ヲ往訪シ伯國政府ノ意向ヲ尋ネタルニ同長官ハ本件法案ニ對シテハ毫モ重キヲ措カスシテ曰ク伯國政府ハ本年三月「サンティヤゴ」ニ於テ開催セラレタル第五回全米會議ニ亞國愛國協會ヨリ人種ヲ異ニスル好マシカラサル移民排斥ノ建議ヲナシタルニ對シ之ニ反對スヘキ旨ノ訓令ヲ伯國全權ニ与ヘタル一事ニ徵スルモ伯國政府ノ移民問題ニ對スル態度ハ明白ナリ該法案ハ多分外交委員會ニ於テ握リ潰サルルナランモ提案者トハ相識ノ間柄ナルヲ以テ適當ナル機會ニ注意シ置クヘシ云々ト答ヘ又駐日伯國大使「フアリア」氏ハ下院議員全部ノ改選ハ明年二月（第一日曜日）ヲ以テ行ハルルニヨリ提案者ハ人氣ヲ博センカ為自己宣傳ノ方法

トシテ斯ノ如キ法律案ヲ提出シタルモノト推察セラルル旨本使ニ談話セリ尚過般ノ本邦大震災ニ付キ議會ニ於テ慰弔演說ヲ試ミタルコトニヨリテ明カニ日本最眞ノ士ト認メラルル同シク「ミナス・ジェラエス」州選出ノ下院議員「アウグスト・デ・リマ」氏ニ十月二十八日面会ノ序ヲ以テ氏ノ本法案ニ關スル感想ヲ敲キタルニ伯國ハ元來人種平等ノ國ニシテ平和會議ノ際ニモ伯國民ハ人種平等案ニハ賛成シタル程ナレハ今回ノ「レイス」案ノ如キハ到底問題トナラサル旨ヲ答ヘタリ又本使ハ本法律案ニ關スル新聞ノ論調如何ニ注意ヲ払ヒ來レルカ同案提出後ノ一週間ニ於テ当地諸新聞中之ニ論評ヲ加ヘタルハ單ニ「ウ・バイース」紙一アルノミニシテ同紙ハ十月二十五日ノ紙上ニ於テ伯國ハ既ニ貧困者、狂人、傳染病者、不具廢疾者、秩序妨害者、醜業媒介者等ノ入國ヲ禁止スル立法ヲ有スルモ人種ノ組成上害アリテ益ナキ劣等ナル有色人種ノ移入混血ヲ防止スル立法ハ未タ之ヲ有セサルヲ以テ伯國ノ人種改良上何等ノ不便ナキ欧州移民ヲ奨励シ劣等ナル異人種ヲ排斥スル「フィデリス・レイス」案ハ之ヲ補フニ足ル云々トノ趣意ニテ賛成ノ意ヲ表セルモ全文

ヲ通シテ黄色人、東洋人若ハ日本人ナル語ヲ一回モ使用シ居ラサルコト及其ノ他ノ諸新聞カ本法案ニ対シ甚タ冷淡ナル態度ヲ持シ一律ニ沈黙ヲ守レルヨリ見テ案外ニ其ノ共鳴者尠キヲ知ルヘク旁々本法律案ハ議會通過ノ見込ナキコト既記ノ通ニシテ万々一之レ有リトスルモ政府ニ於テ其ノ実施ヲ妨クルヤ必セリ然レトモ之ヲ北米ノ例ニ徴スルニ提案者ハ(若シ幸ニシテ再選セハ)毎年之ヲ繰返ス虞ナシトモ限ラレスサスレハ当国民間ニハ從來日本移民排斥ノ意見ヲ持シ時々之ヲ公ニセル者モアリテ排日ノ声皆無ナリトハ言ヒ難ク幾度トナク之ヲ繰返ス間ニハ漸次識者間ニモ相当ノ共鳴者ヲ出スニ至ルヘキヲ予想スルニ難カラス幸ニシテ目下伯国政府ハ我移民ニ対シ好意ヲ有シ居ル際ナレハ本法案ノ提出セラレタルヲ見テ毫モ逡巡スルコトナク寧ろ之ヲ一種ノ刺戟劑トシテ利用シ此ノ機ヲ逸セス速ニ出来得ル限り多数ノ我移民ヲ伯国ニ送出シ一日モ早く邦人發展ノ確固タル地盤ヲ築キ上ケ排日思想ヲシテ抬頭ノ余地ナカラシムル様我政府ニ於テ適當ナル方針ヲ画定セラレンコトヲ切望ス右往電第六六号及第六七号ノ補遺旁別紙移民法律案原訳(註)文各一通相添此段申進候 敬具

本信写送付先 在サンパウロ斎藤総領事
註 別紙中ノ移民法律案原文省略セリ

(付属書)

レイス移民法案和訳文

一九二三年十月二十二日「ミナス・ジェラエス」州

選出下院議員「フィデリス・レイス」氏提出

第一条政府ハ植民トシテ伯刺西爾ニ移住セント欲スル欧羅

巴ノ農民家族ノ誘入ヲ促進シ及援助スルノ権能ヲ有

ス

補款此ノ目的ノ為ニハ連邦若ハ州ニヨリテ補助セラルル

ト否ヲ問ハス移民ノ出国ヲ許可シ及其ノ出国ニ便宜

ヲ与フル国ニ対シ税関上ノ便宜ヲ提供シテ之ト労働

及通商条約ヲ締結スルコトヲ得

第二条政府ハ諸州ニ向ハシメテ其ノ州内ノ地ニ定着セシム

ル植民ノ数ニ比例シテ移民事務果増ニ因ル費用ヲ釀

出セシムル為諸州ト協定ヲ結フヘシ

第三条其ノ管掌事務ノ能率ヲ増加シ且其ノ事務ノ実現範圍

ヲ拡大スル為土地移民局ノ官制ハ之ヲ改正スヘシ

第四条政府ハ国民ノ人種的精神的及体力的組成ニ有害ト認

ムル有ユル分子ノ入国ヲ遮止スル為其ノ孰レノ地ヨリ出発シ来ルヲ問ハス伯刺西爾ニ向テ渡来スル移民ニ関シ嚴重ナル取締ヲナスヘシ

第五条黒人種ノ植民ハ伯刺西爾ニ入国スルコトヲ禁ス又黄

色人ニ関シテハ該人種ニ属スル国内現在者ノ百分ノ

三ニ相当スル人数タケ毎年入国ヲ許可スヘシ

第六条政府ハ本法施行ニ必要ナル支出ヲナスコトヲ得

第七条本法ニ抵触スル規定ハ之ヲ廢止ス

一六三 十二月二十八日

在伯国田付大使ヨリ

伊集院外務大臣宛(電報)

レイス移民法案通過阻止ニ付外務大臣ニ尽力

方依頼ノ件

第七九号

(十二月三十日接受)

本邦移民制限法案ニ関シテハ其ノ後同法案審査委員会ニ於テ審査中ノ処去ル二十一日同委員長ヨリ議會ノ同法案主査部タル農事委員会ニ報告シ該法案ハ早晚議會ノ議事ニ上ルヘキ形勢トナレリ

該報告ニ依レハ原案制限數百分ノ三ヲ百分ノ五ニ改メ原案ニ賛成ノ意見ヲ表示シアルニ依リ本使ハ翌二十二日予算委

員長トシテ議會ニ相当有力ナル元「サンパウロ」州統領「アルチノウ・アランテス」氏ヲ往訪シ議會ノ模様ヲ探リタルニ当會期中ハ同法案ノ通過スヘキ憂ハ万々ナカルヘキモ議會内ニ於ケル法案賛成ノ空氣ハ相当濃厚ナルカ如シトノコトニ付本使ハ此際外務大臣ニ右法案否決方少クトモ日本移民ニ関スル条項削除方ニ関シ尽力ヲ頼ミ置クコト得策ナルヘシト信シ早速右趣旨ニテ公文ヲ認メ之ヲ手交スル為同大臣ニ面會ヲ求メタルニ時恰モ「クリスマス」ニ際シ漸ク今二十七日面會ヲ得前記ノ事情ヲ述ヘタルニ同大臣ハ答テ曰ク本日本使訪問ノ意義ハ略ホ想像シタルニ付昨日閣議ノ際大統領トモ本件ニ関シ話合ヒタルカ大統領ハ日本大使ニ対シ連邦政府ハ決シテ本法案ヲ認容セサルヘク且大統領ハ法案提出者トハ出身地ヲ同クスル關係上之ニ説ク所アリ結局同法案ヲ擱潰スコトト為スヘキ旨確答ヲ与ヘ差支ナシト謂ヘリ(以上管内各領事、亜爾然丁、智利、秘露ヘ郵報濟)

右大臣ノ答ニ依リ本使携フル所ノ公文ハ殆ト用ヲ為ササルノ觀アルニ至リタルモ後日ノ為兎ニ角之ヲ手交シ置キタリ談話ノ序ニ本使ノ問ヒニ答ヘテ大臣ハ曰ク

駐日新大使「ド・ファリア」氏ハ夫人ノ懇望黙止難ク日本赴任ヲ躊躇シ居タルカ本邦大地震以後一層其ノ念ヲ深クシ同大使ハ日本赴任ヲ大統領迄断ハリ出タリ就テハ目下同大使ニ辞表提出方ヲ迫リ居レハ之ト共ニ目下在瑞西伯国公使「ド・ブランコ」氏ヲ其ノ後任ニ推ス管ナルガ同公使ハ日本赴任ヲ殊ノ外希望シ居レリト

本使ハ皇太子殿下御成婚式ハ二月初旬頃ナラント察セラルル処若シ我友邦中最モ親ミ深キ国ノ一ナル伯国カ其ノ際相

当代表者ヲシテ式ニ列セシメ得サル場合トモナレハ我(脱)スル所ナラント述ヘタルニ同大臣モ大ニ同感ナルニ付新大使ノ赴任ヲ大ニ急クヘシト謂ヘリ乍併若シ果シテ世間伝フル如ク御成婚式カ二月五日頃御挙行ニナルニ於テハ当国国柄トシテ新大使ノ到着ハ夫迄ニ間ニ合フ様相抄取ルヘキカ覺東ナキコトト存セラル御参考迄申添フ

事項四 勞農露国ノ内政ト対外関係

一六四 一月六日 中山関東庁警務局長ヨリ
芳沢外務省亜細亞局長宛

露国反過激派軍ト張作霖トノ提携交渉ニ関シ

報告ノ件

関機高収第七七号ノ一 (一月十三日接受)

大正十二年一月六日

中山関東庁警務局長(印)

芳沢外務省亜細亞局長殿

白軍ノ対張作霖秘密交渉

一、奉天ニ先発セル白軍司令部参謀長「ペトロフ」少将ニ対シ十二月七日「チデリックス」少将ハ電報ヲ以テ白軍ノ全部カ張作霖ノ麾下軍籍ニ編入セラルルヲ希望スル条件ヲ以テ各種ノ交渉ヲ為スヘキ旨委任シタリト但シ本件ハ極秘ニ付セラレアリ

一、奉天ニ於ケル「ペトロフ」少将ヲシテ張作霖ト秘密交渉ヲ為サシメツツアル状況ハ前記ノ如クナルカ十二月十八日同少将ヨリ「チデリックス」將軍ニ宛テタル来電ノ

四 勞農露国ノ内政ト対外関係 一六四 一六五

内容ニ拠レハ該件ハ未タ確實ナル回答ナク「スタルク」提督ノ海軍カ其行動ヲ分離スルハ進捗ニ障害アルモ詳細ハ同提督ノ通報ヲ待タスンハ真意ヲ測リ難シ云々

「チデリックス」將軍ハ本件交渉ニ一縷ノ望ヲ囑シ解決ノ速ナランコトヲ期待シ居レルカ今ヤ赤軍ノ蒙古方面侵略及東支線方面ニ強硬ナル行動ニ出テントシ支那ハ国境ノ脅威漸次加ハリツツアルヲ以テ之カ防衛ノ為必ス白軍ヲ利用シ提携シテ之ニ当ラントスルニ出ツヘキハ当然ノ帰結トシテ実現近キニアルヘシト自信シ居レリ

註 右同文ハ伊集院関東長官宮田内閣書記官長及元田拓殖事務局長ヘモ夫々送付セラレタリ

一六五 一月九日 在独国日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

レーニンノ病状、其ノ死後ノ露国ノ政局ノ動向、其他露国ノ状勢ニ関スル露国通ドイツ人ノ談話報告ノ件

第五号 (一月十一日接受)